

らい 来ぶらり 14

卒論悲話・ゼミ論苦話

卒論“鬼”蘇生譚

——自己暗示の光と影

①12月10日、図書館3階に籠もっていた。壁際の席で仲間が頭を抱えて下書き原稿用紙に向かっている。勝手にこう思う「俺の方が進んでいる（笑）」。安堵感はエネルギーとなる。（この日、実は製本まで終えた別の仲間を見て、ショックを受けている。ゆえに自己暗示）

②18日、徹夜第1日目。「学会を揺るがす一大論文だ！」そう思うと自信がわいてくる。（この日、実は読み忘れた重要論文を見つけて落ち込んでしまい必死に自己暗示をかける）

③20日、締め切り2時間前に提出。張りつめた神経が音と共に切れる。（ついに、鬼が現れる。翌21日から丸5日間高熱で倒れ、腹も壊す）

——注：こうした鬼は、準備周到だと決して4年生に危害を加えぬという。しかし、逆にややもすれば「翌年の学生生活」を手土産に、締め切り前に現れるとも聞く。昨年私は幸か不幸か、提出直後に鬼に襲われ、暗いイヴを送った。月並みだが、早めの準備は最良の処方である。と共に「自己暗示」が意外と効果的である。“鬼”を蘇生させぬよう皆様の健闘を祈る。（史学専攻M1年 荒木陽一郎）

10の戒め

——卒論を書くにあたって

卒論に関して陥り易い現象は以下の通りである。①単なる思いつきなのに真理についているという自己暗示にかかる。②自分の理論で説明のつかないことを、意識の外に追い出そうとする。③他人の意見を聞くや、天の助けとばかりすぐ飛びつく。④他人の意見を、さも自分の意見のようにして使用する。⑤④について自覚していない。（これはヤバイ）⑥自分の論は誰が何と言おうと正しいといった考えが、露骨に文章に表れている。⑦前半の理論と後半の理論が矛盾している。（長い論文ではよく生ずる現象である）⑧知らぬ間に、同じことを何度も書いてしまう。⑨自分がかうまく説明できない所は、文章が異常に弱気になる。⑩結論を導き出すのに、何ら関係のない記述が多い。（特に後半になると出現する）

以上の10点すべてにあてはまらない論文を書くのは、至難のわざである。大切なことは、まず自分の好奇心を持続させること、そして自信を持って取り組むことである。自分に納得のいくものを書く、という姿勢を忘れないで欲しい。いいかげんな態度は必ず文章に表れてしまうのだ。（国文学専攻M1年 加藤和利）

“独創性”に書く喜びを

論文に実証を含める場合、データの収集に多くの労力と時間を費やすことでしょう。場合によっては全体の8割近くを占めることもあります。また、民間のデータベースは未契約の大学の学生に対しては有料の場合もあり、思わぬ出費になることもあります。

次に、適切なデータが存在しない場合に、他のデータで代替したり、加工したりして、充用することがあります。そんな時のために、統計指標の種類や集計方法を書いた文献等を、あらかじめ整理しておくとう便利です。

卒論レベルでは、ここまでの過程を確実に行うことで十分で、モデルや仮定によほどの独創性がない以上、結果は出たとこ勝負です。結果が有為に出ない場合でも、それは十分意味のあることです。良い結果を求める余り、データを捏造するのは、むしろ無意味です。

論文を書くことは苦痛ですが、そこに独創性がある程、苦痛は軽減します。内容に限らず、分析手法や言葉の選別等で独創性が発揮できれば、その論文はいとしくさえてくるでしょう。そして“独創性”のもつ稀有性と活力剤的效果を、感じることでしょう。

(経済学専攻M2年 伊藤 肇)



日本女子大学 図書館

私たち学生が、「来ぶらり」の“一日記者”になって、他大学の図書館や近隣の資料館を訪問するこの企画の第1回目は、男子学生にとって、近くて遠い日本女子大学図書館です。

わが学習院の正門を出て、目白通りを1km程東へ向うと、あの“ポン女”がありました。その図書館は、竣工が昭和40年頃の建物で、学習院のそれとよく似たコンクリート壁です。当時は、こういう建物がはやったそうです。鬱蒼とした木立の中で、男子学生諸君がいな

いせいもあってか、建物は清楚な明るさに輝いていました。VERITAS VIA VITAE (生を通しての真理)という言葉が掲げられた正面玄関をくぐり、ホールを抜けるとすぐにカウンターと目録コーナーがありました。職員の方もすべて女性だそうで、花器に活かされた紫と黄の蘭が、そんな館内を象徴する



柔らかい日差しの間覧室

かのようにおっていました。ここは全面開架方式を実施していて、1階から4階まですべて自由に閲覧できます。各階には閲覧席が設けてあり、中央に大きなテーブルが並び、窓際に沿うようにキャレル(個人机)もありました。窓にはまった障子を通して、柔らかい光が部屋を包んでいました。あと気がついたことは、館内いたる所に立派な油絵が掛かっているのと、コート掛、鏡が多かったということです。

見学を終えて外へ出ると、ちょうど教会風の建物から出てくる女子大生の一団とすれ違い、何となく軽蔑のまなざしを感じつつ、ニンマリ顔の編集委員の中山さんと帰路につきました。(国文学科4年 長尾喜之)

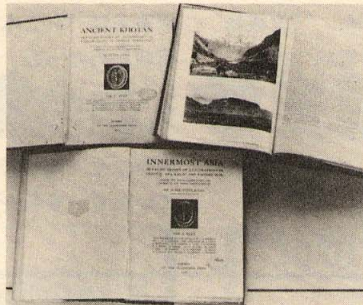
「中央アジア探検の巨人・スタインの著作」
—これは第8回資料紹介展（1980年1月）
のタイトルである。以下同展のパンフレット
より序文を引用して、名著の誉れ高い彼の三
部作をリヴァイバル紹介し
てみたい。

「アフガニスタンの首都
カブールにスタインの墓が
ある。古代の歴史をさぐっ
て旅を続ける老探検家はパ
キスタンのペシャワールか
らカブールに着いた時、風
邪がもとで82才の生涯を終
えた。墓石にはこんな言葉
が彫られている。

マルク・オレル・スタイン

インド考古学調査員、学者、探検家にし
て著述家。
インド、シナ・トルキスタン、ペルシア、
イラクの困難を極めた旅行により知識の

スタイン卿のセリンディア



分野を拓く 1862年11月26日ブタペスト
に生まれ 1904年イギリス市民となり
1943年10月26日ガブールに死す
心より愛されし人なり」

これがスタインの全貌で
ある。彼は1900～16年にか
けて、3次に渡って中央ア
ジアを踏査した。その調査
報告こそ『古代コータン』
『セリンディア』（セリス
〔絹〕の国シナとインディ
アの合成語）『内陸アジア』
として知られる三部作であ
る。これらは完璧な学問的
処理と記述・編集を特色と
している。また、発行部数

が少なく貴重な文献でもある。ヘディン(1865
～1952 中央アジアの探検家)と共にその功
績は不滅。

(洋書係 鈴木宗一)

ベテランですが、新人？です。よろしく！

法経図書室から 大学図書館へ異動になり、
洋書整理係1年生。待遇は1年間指導者付きです。
仕事が変わるってどんな事だろうと、漠然と考
えていたころは、“どこへ行ってもこの長～いキャ
リアがものいうさ”と気楽な気持ちでいたところ、
何と毎日が横文字カードとの戦いだ。ベテランき
どりでいた私も“ただ年をとっただけじゃないか”と、
すごいパンチを食らい、ダウン寸前。こうなつ
たら当分新人という武器を行使するしかない。“失敗
しても新人”“わからない時も新人”“うるさがられ
ても新人”何と言われようと私は新人だものね！
の毎日です。

(洋書係 千村英子)

短大図書館から 転勤してはや3か月。頭
も身体も目白のキャンパスでの生活によろくな
じんできた。戸山のキャンパスは四季折々の花が
色鮮やかに咲き、目を楽ませてくれたが、目白の
キャンパスは圧倒的に緑(色)が勝っているように
思う。あわただしく出勤してくる朝。木立の間の道
に一步踏み込んだ時に感じる冷気と静寂がなんと
もいえずうれしい。気持ちがシャキッと引き締ま
り、仕事への緊張感が生まれてくる。短大で10年
余の経験は積んだが、ベテランぞろいの大学では
駆け出しの序の口である。日々研鑽を積み、一日
も早く大学図書館の資料を使いこなせる司書にな
りたいと思う。どうぞよろしく。(和書係 石田京子)

文庫の判型はA6判。大きさは同じだがページ数はさまざま。もっとも分厚いのは講談社学術文庫『英和辞典』で1,560ページ。値段では同文庫『経済辞典』2,400円が最高。最大規模の全集は『折口信夫全集』全32巻、17,440円。〈朝日ジャーナルVol. 28 No. 13より〉

参考室あれこれ

「昭和10年頃出た山田孝雄の『桜史』を見た」来館者は「サクラシ」とおっしゃった。カード目録（新・旧分類）、冊子目録をひくが、ない。継続調査を約束していったん帰っていただけ。他機関の蔵書目録にも出てこない。「サクラシ」(佐倉市みたい)と気になりながらも、他の急ぎの仕事に追われ数日が過ぎた。「『大坂物語』を所蔵していますか」という電話での問い合わせを受け、旧分類のカードをひいていると、「桜史 ^{OHSHI} 山田孝雄著 桜書房 昭和16.5」というカードにぶつかった。「オウシ」と読むのか。わかってみれば何のことはない。

「ドストエフスキーの『やさしい女』を見た

い」オーソドックスな方法をひと通り試みたが、出てこない。書庫にはいり、『ドストエフスキー全集』（新潮社 全28冊）の目次を見ていく。第18巻『作家の日記 II』の目次に、「1876年11月 やさしい女—空想的な物語」と出ている。巻末の解題に、「この作品は普通は『おとなしい女』と訳されているが……」とあった。『明治・大正・昭和 翻訳文学目録』をひくと、翻訳書名は『おとなしい女』で、『可笑しな人間』所収とわかった。学生は、『作家の日記』でよいということで、図書館所蔵本で間に合った。

戦前の『支那……』という図書が、戦後、内容は全く同じで、『中国……』と改題されていたり、資料を探す時、書名はくせものである。（参考係 久保田安子）

コピー係 繁盛記



新学期がスタートして数カ月がたちました。久しぶりの古巣に帰っての閲覧係で、毎日あわただしく過ごしています。先日「ミドリ」のトウについて調べています」という質問を受けて、一瞬 green tower を思い浮かべる（洋書係8年の成果か）。西ドイツのということで、やっと“西ドイツ緑の党”ができました。やれやれです。幸い欲しい資料がすぐに見つかって一件落着きました。もし探している資料が図書館になれば、他の大学へ文献複写の依頼をしています。そういえば、コーネル大学へ依頼したAさん。2週間かからずにコピーが送られてきました。今までの新記録。早目に料金を振り込んで、相手の好意にこたえましょう。ミシガン大学で本の保存上の理由からコピーを断られ、フランクフルトの図書館へ再度依頼したBさん。早く返事がくるとよいですね。こちら新米コピー係、おてやわらかにお願いします。

（運用係 甲斐静子）

お知らせ

○夏休み中も図書館は開いています。

7月21日(月)から9月22日(月)まで、次のとおり利用できます。

平日：8:50～16:30

土曜日・日曜日・祭日：休館（ただし9月6日・13日・20日は12:00まで開館）

○夏休み長期貸出が始まります。

取扱期間：7月7日(月)～9月22日(月)

返納期間：9月26日(金)～10月7日(火)

貸出冊数：学部学生……5冊まで

院 生

論文貸出（4年生）

……10冊まで

○「論文貸出」の登録受付中

卒論・ゼミ論のテーマが決まった学部4年生を対象に、一般の貸出とは別枠で「3冊・1カ月間」の館外貸出をする「論文貸出」の登録受付中。

来ぶらり No.14 1986年7月1日発行

発行責任者：森永 毅彦

編集委員：中野里美 中山高二

学習院大学図書館 〒171 東京都豊島区目白1-5-1 ☎(986)0221